

巻頭言「子どもの笑み」に焦点をあててみては…

小田原市教育研究所長 長澤 貴

私たち人間が無意識のうちに「笑み」を浮かべているときとは、どのようなときでしょう。自分はここにいていいのだという安心感が持てたとき、自らの力で学びをつかみ取れそうだという期待感やつかみ取れたという達成感が持てたとき、人から認められたという自己有用感が持てたとき、仲間から信頼されているといった実感が持てたときなど、様々な場面が思い浮かびます。

そうだとすれば、「子どもの笑み」を学習の中でめざす具体的な姿の一つとしてイメージしつつ、安心感・期待感・達成感・自己有用感・信頼感といったキーワードを組み入れた学習を構想していくことは、子ども一人一人の学びを保障していくことにつながるのではないかと考えます。

また、校内研究などで子どもの学習場面を参観する際にも、この「子どもの笑み」を一つの視点として置いてみてはいかがでしょうか。子どもが目を輝かせ笑みを浮かべながら学習に取り組んでいるときは、学びの対象である「人・もの・こと」と主体的に関わっており、その子どもにとって充実した学びが成立している状態であるに違いありません。

このように私たち教師は、子どもが笑みを浮かべている場面を積極的に見取り、それがどのような条件や状況によるものなのかを分析していくと、その子どもにとっての学びの深さを測ることができるとともに、私たち教師自らの教育実践へのヒントをつかむことができることでしょう。

研究所便り

デジタル版「小田原の自然」

小中学校理科副読本『小田原の自然』は、平成 9 年に発刊されて以来、多くの小中学生に活用されてきました。「おだわら キッズミュージアム」にも収められていますので、PC やスマートフォンなどからもご覧いただけます。

理科の学習時はもちろん、ご自身の学習などにもご活用ください。



研究所 新刊図書の紹介

教育研究所で新たに購入した図書の一部を紹介します。教育図書は、逓送便で受け取ることもできます。教育図書の検索・申込書の印刷・送付方法等につきましては、「市内共有＞99 教育委員会＞05 教育指導課＞23 教育図書」をご確認ください。

考え、議論する道徳に変える 導入・終末&評価の鉄則 31	加藤宣行 著
G I G A スクール時代の「ネットリテラシー」授業プラン	堀田和秀・津田泰至 著
個別最適な学びと協働的な学び	奈須正裕 著
前略、高座から―――。	第 3 回おだわら未来学舎講師 柳家三三 著
凸凹のためのおとなのこころがまえ	第 4 回おだわら未来学舎講師 三木崇弘 著
リエゾン—こどものこころ診療所—	〃 三木崇弘 監修

児童生徒一人一人が個別最適な学びを充実させる授業づくり

～ICTを必要に応じて個々の学びに生かす～

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るために、自分の学習状況を把握し、粘り強く取り組んだり、自己の学びを調整したり、他者と関わって学んだことを自分の学びに生かすことが必要になります。

児童生徒が自らの学びを深めるために自分自身で選択してICTを活用できるようになるという視点から、上記テーマを設定し、小中学校5名の研究員で今年度から共同研究を立ち上げています。

研究の方向性と具体的な手立てとして、次の5つを設定しています。

- ① ゴール・問い・見通しの明確化
…方向性を間違わず、子どもが最適にICTを使えるようにする
- ② ICTのスキル向上…ICTを状況に応じて使えるようにする
- ③ 選択肢としてのICTの提示…子ども自身で学びの選択、最適なものを選ぶ
- ④ 児童生徒の思考ベースで考える単元計画…子どもそれぞれの考えを予測し計画を立てる
- ⑤ 学習環境として、様々な選択肢の準備…問題解決や考えを発信する場面につなげる

〈研究員〉

◎加賀谷元（下府中小学校）
鈴木直人（桜井小学校）
長澤孝江（富士見小学校）
加藤太一（白山中学校）
三廻部啓輔（泉中学校）

ある幼稚園の園内保育研究会に参加しました。市立幼稚園は「幼児の主体性を育むための教師の資質向上」を共通の研究主題として園内研究に取り組んでいます。

園児の遊び「車レース」では…

作った坂道をコースにして車を走らせて遊んでいる数人の園児に、先生が声をかけました。

T：ゴールの線まで車が届いた人いる？どうやったらいいかな？

C：助走をつけてみようかな。

T：助走をつけてみたらどうだった？

C：曲がっちゃったよ。

T：どうして曲がっちゃったかな？

先生は、遊びが深まるように、園児自身に考えさせる声かけをしていました。



幼児期は、遊びを中心として、頭も心も体も動かして主体的に様々な対象と関わりながら総合的に学び、豊かな心と体を育んでいきます。先生方は、一人一人の子どもを理解し主体性を育むために、共通理解を図りながら環境を整え、共に遊んだり、見守ったりして園児と関わっていました。

小中学校の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められていますが、そのベースは幼児教育で育まれています。今回研究会に参加し、幼稚園から小学校、小学校から中学校へ入学した子どもたちがどのような学びをしてきて、どのような力がついているのか、実態をしっかりと把握して指導していくことの大切さを改めて感じました。